吹上小

主体的に学び、共に高め合う子どもの育成

～児童の意欲を引き出す「学習課題」と

学びを確かなものにする「振り返り」を意識した授業づくり～

（３年計画の３年次）

校　長　　峯　香代子

１　研究主題について

本校では、教育目標として「気づき、考え、行動する子」、努力目標として「進んで学ぶ子」を掲げ、自ら問題を見つけ、解決に向けて主体的に学習に取り組む子どもを育てることを目指している。学習指導要領の目標及び内容をふまえ、児童の意欲を引き出す「学習課題」を設定し、互いの考えを伝え合いながら課題を解決し、授業の終末では学びを確かなものにする「振り返り」をすることで、「わかった！できた！身についた！」を実感し、主体的に学び、高め合う子どもを育てることができると考え、研究主題を設定した。

昨年度は、３年計画２年次として「主体的に学び、共に高め合う子どもの育成～児童の意欲を引き出す『学習課題』と学びを確かなものにする『振り返り』を意識した授業づくり～」という研究主題のもと、教師が意図する「授業のねらい」と児童の「解決したい」という思いが一致したタイミングで設定される「学習課題」や教材のしかけ・発問の工夫、また、授業の終末に、児童が「分かった、できた、身に付いた」と実感したことを、板書やノート、評価問題や発表などで「振り返り」、学びを確かなものにする授業づくりを目指し、授業改善を行った。

その結果、単元を見通した学習活動や問い返し、問題提示の工夫によって、解きたくなる学習課題を設定することができた。また、学習で分かったことや学習に対する意欲など、様々なパターン（文章、数値、観点）での振り返りを提示したことで、児童が自分の学びを振り返ることができるようになった。

今年度は、これまでの成果を生かしつつ、児童同士、教師と児童との対話の中から、より解きたくなる学習課題が設定できるよう、研究を進めたい。また、今年度の振り返りの成果と課題を整理し、児童の発達の段階や教科の特性、授業のねらいに合わせて活用していきたい。それにより、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していくことができると考える。

２　研究のねらい

主体的に学び、共に高め合う児童を育てるために、児童の意欲を引き出す「学習課題」の設定の仕方と学びを確かなものにする「振り返り」の工夫を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童の意欲を引き出す「学習課題」を設定し、学びを確かなものにする「振り返り」を工夫することにより、主体的に学び、共に高め合う子どもを育成することができる。

４　研究内容

(1) 児童の意欲を引き出す「学習課題」の設定
(2) 学びを確かなものにする「振り返り」の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	授　業　研　究・実　践　発　表	授業の概要
６	２	第１回授業研究（国語） 「たんぽぽのちえ」 ２年２組　　授業者　工藤　麻美	挿絵を順不同に提示して正しく並べ替えさせ、「この順序になるのはなぜ」と問うことで、「とき」を表す言葉に着目することができた。これからの文章の書き方に生かそうとする意欲が高まった。
６	３０	第２回授業研究（国語） 「なつがくる」 ４年１組　　授業者　畠舘　真里恵	連のつながりを意識させるために詩の一部分を隠したり、連を並べ替えさせて３つの観点で整理したりした。振り返りでは、入れる言葉を指定したことで、観点がぶれずに書けた。
１１	１７	第３回授業研究（国語） 「やなせたかし ーアンパンマンの勇気」 ５年１組　　授業者　杉本　佳子	「本当の『正義』『勇気』『ヒーロー』の中でやなせたかしが一番大切にしたものはどれか」と問うことで、選びその根拠を本文から探す必然性が生まれ、対話を重ねて考えを深めることができた。
１１	２４	第４回授業研究（国語） 「やまなし」 ６年１組　　授業者　髙田　千賀子	前時までに「かわせみ」と「やまなし」の対比を十分に行い、「なぜ題名は『やまなし』なのか」と学習課題を提示し、資料と併せて読んだことで、作者の生き方・考え方まで深めることができた。
１２	８	第５回授業研究（国語） 「プラタナスの木」 ４年１組　　授業者　大江　真理子	読む場面を限定して「おじいさんがプラタナスの木だと言えるのはどこからか」その根拠を本文から探させた。３人組で交流して確かめ、自信をもって全体で発表することができた。
１２	１４	第６回授業研究（国語） 「たぬきの糸車」 １年４組　　授業者　望月　暢子	「冬の間、たぬきは何をしていたのか」を春の場面から想像させた。「たぬき日記」を継続して書かせてきたことでたぬきの視点からおかみさんの行動や心情を読み取ることができた。
１	１１	第７回授業研究（自立・国語） 「ミニスマイル集会をしよう」他 特別支援学級　授業者　元木 欣也 阿部 千絵・寺田 晴美	本時の流れを初めに提示する、頑張りの見える化を図る、子どもが活動に参加できなくなったときには話題や環境を変えるなど、通常学級でも普段から実践できる事例を学ぶことができた。

(2) 一般研修

月	日	内　容
５	２６	国語科における問題解決的な授業づくりに関する研修 講師　八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事 福田　秀貴　氏
６	９	１人１台端末活用に関する研修 講師　八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井　一二三　氏
１	２６	授業における１人１台端末の活用に関する研修 ５学年　教諭　　杉本　佳子・熊野　淑・横内　裕史

６　研究の成果

(1) 児童の意欲を引き出す学習課題を吟味し教師の働きかけを工夫して提示したことで、より深く読み考えようとする意欲が高まった。

(2) 振り返りで使うキーワードを提示することで、何が分かったか、どんな力が付いたのかを意識して、各発達段階に応じて振り返りを記述することができた。

７　研究の課題

(1) 児童の実態を的確に把握し、児童が自ら解きたくなる学習課題を設定できるよう、研究を推進めていきたい。

(2) 何を振り返るのかを教師が明確にもち、単元や題材の内容に合わせて振り返りの場面の設定を工夫していきたい。

（記入者　工藤　麻美）